

第16回 ネオクラシック コンサート

～音楽とお話でつづる午後のひととき～ 岐阜県交響楽団演奏会

2015年 **12月20日** [日] 14:00開演(13:20開場)
瑞穂市総合センターサンシャインホール

管弦楽：岐阜県交響楽団

指揮とお話：田中陽治

合唱指導・ソプラノ：赤堀織慧

バリトン：杉本 俊

合唱：ネオクラシック合唱団

練習ピアノ：鹿野規子

威風堂々第1番

愛のあいさつ

見よ勇者は帰りぬ

オペラ「椿姫」より“乾杯の歌”

混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

“農夫と土” “祖国の土” “大地讃頌”

Believe

指揮者コーナー etc

●チケット料金

一般…1,000円

中学生以下…500円

●チケット取扱

瑞穂市総合センター事務局

瑞穂市文化協会事務局 (月～金10:00～16:00)

〈チケットぴあ予約専用電話〉

0570-02-9999 (Pコード 272-251)



[URL] <http://pia.jp/t/>

※チケットぴあスポット、セブンイレブン、サークルKサンクスで、
直接お買い求めいただけます。
※お近くの中日新聞販売店でもお買い求めいただけます。
9月1日10:00から、販売開始いたします。

オーケストラと合唱の響宴

【お問い合わせ】〈洋楽部会〉090-8150-6114(役) 090-8956-5371(広瀬) E-mail mizuho_bunkaza@yahoo.co.jp 〈瑞穂市生涯学習課〉058-327-2117

主催：瑞穂市 共催：瑞穂市教育委員会・瑞穂市文化協会 主管：瑞穂市文化協会洋楽部会 <http://mizuho-bunkaza.com/>

第16回ネオクラシックコンサート 出演者プロフィール



たなか ようじ
〔指揮〕 田中 陽治

岐阜大学教育学部音楽学科にてコントラバスを専攻。卒業とともに岐阜県交響楽団に入団し、これまで37年間にわたって演奏活動を続けている。

また1988年には「ぎふ中部未来博」イベント広場におけるサマーコンサートの指揮を担当し、それ以降今日まで110回を超える岐響演奏会を指揮している。県内各地域における、小中学校教員としての豊富な経験を生かした演奏会の企画、指揮、司会進行には定評がある。

瑞穂市におけるコンサートの指揮は今回で8回目を数え、毎回、親しみやすい語りや解説を交えた演奏会の進行が好評を博している。

指揮法を松尾昌美氏(大阪音楽大学名誉教授)、コントラバスを梅原慎平氏(NHK交響楽団団友)、作曲法を兼田敏氏(故人)に師事。中央教育審議会専門委員(芸術)、2012ぎふ清流国体テーマソング選定委員長を歴任。現在、岐阜女子大学文化創造学部教授。



あかほり おりえ
〔合唱指導・ソプラノ〕 赤堀 織彗

岐阜県立岐阜北高校。聖徳学園大学(旧岐阜教育大学)教育学部音楽専修卒業。

大学卒業後、故亀山(高木)啓子氏に師事し声楽を本格的に学び始める。その後、諸先生に師事し、第4回・第5回日本クラシックコンクール声楽部門にて、2年連続全国本選入賞、奨励賞、特別賞を受賞。コロラトゥーラソプラノを得意とし、最近ではテノールオペラ曲等も歌う。

これまで第九ソプラノソリストをはじめ、地元オーケストラとの共演、市民オペラ。学校公演、中田喜直・岩間純各氏としての演奏会、西濃推薦コンサート、サロンコンサート等多数出演。傍ら、『SAGGIO』を主宰し、数年毎に「VELLA MUSICA コンサート」を行う。

みずほ女声コーラス、木の本コーラス、リンダフロール、comodo2000、コールすのまた、コールエコー、コファロール、コーログレイス、その他の合唱団を指導。

岐阜・大垣中日文化センター、岐阜新聞カルチャーセンター講師。元岐阜音楽院講師。



すぎもと しゅん
〔バリトン〕 杉本 俊

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業。桐朋学園大学音楽学部研究科声楽専攻修了。

モスクワ音楽院教授 P.I. スクスニチェンコ氏 マスタークラス受講。

第12回岐阜県新人演奏会出演、第11回日本モーツァルト音楽コンクール本選入選、第4回新進演奏家オーディション合格、等受賞。

オペラでは「ディドとエネアス」エネアス、モーツァルト4大オペラ出演をはじめ、「ヘンゼルとグレーテル」ペーター、「カヴァレリア・ルスティカーナ」アルフィオ、「道化師」トニオ、等に出演。また、ベートーヴェン第九ソリスト等も務める。

その他、コンサート歌手としても活動を広げ、特にリリック・ハイバリトンの声質を活かした歌唱力には定評がある。

近年では、震災を機に行なわれた『岐阜の絆をつくる3000人の第九演奏会』にて、合唱指導者としても参加した(岐響共演)。また、表情学の研究に尽力し、各地講演・演奏も行なっている。

現在、岐阜聖徳学園大学教育学部非常勤講師、岐阜新聞カルチャーアカデミー講師、女声コーラス アイズ指導・指揮、日本顔学会会員、Office MARUFUKU Artist。専門：表情学。



公益社団法人 岐阜県交響楽団

1953年、岐阜交響楽団として発足。1975年に社団法人として改組。その後の活動が認められ2011年3月「公益社団法人 岐阜県交響楽団」となる。多くの企業や個人の方々の皆様のご支援を得て、社会的にも益々責任ある団体となった。楽団員は110余名で、様々な職業人で構成しているアマチュアオーケストラである。

活動は、年3回の自主公演を中心に年間5〜6回の演奏会を行い、各地の学校や地域での演奏活動、また、岐響ジュニアオーケストラの育成など、地域に根ざした音楽文化普及と向上発展に熱意と情熱をもって貢献している。

1998年専用の練習場が完成。2003年創立50周年には、日本を代表するサントリーホールにおいて「東京公演」を開催し大好評を博す。

2009年創立55周年には、世界一の響きを誇るウィーン楽友協会・黄金ホールにて「ウィーン公演」を開催し大成功をおさめた。2013年には創立60周年を迎え、マーラー作曲交響曲第2番「復活」を演奏し、力強いメッセージを発信した。

1984年、「地域文化功労表彰」(文部大臣)を受賞。2007年、地域の文化の発展に寄与した功績で「岐阜新聞大賞」(岐阜新聞)を受賞。1999年、「ふるさと文化賞」(岐阜市)を受賞。

今後、ますますのレベルアップを図り、郷土の皆さまに、いっそう誇りをもっていただけるオーケストラを目指し、努力を続けている。



ネオクラシック合唱団

「ネオクラシックコンサート」のために結成された合唱団で、ネオクラシックコンサートに3回目の共演だが、今回は混声合唱団で新境地を発揮するために練習を積んできた。coro alba、comodo2000、コーロ・ファール、コール・エコー、みずほ女声コーラス、個人参加の皆さんで構成されている。